

令和7年度

北海道教育大学
附属函館幼稚園だより
NO. 15【号】



和顔愛語

北海道教育大学附属函館幼稚園長 五十嵐 靖夫

少しずつ日差しも暖かくなり、春を感じるようになりました。いよいよ、ゆき組さんの卒園式を迎えます。「おはようございます」と元気いっぱい笑顔であいさつをしてくれた園児たちと昨日まで毎日のように会えていたのに突然会えなくなる。卒園式後の誰もいないゆき組のお部屋を想像すると今から悲しくなります。

附属幼稚園の園舎に入ると自然に笑顔になります。きっと園児たちの笑顔のおかげだと思います。園児たちの溢れんばかりの笑顔に接し、私も自然に笑顔になっているのかもしれない。

仏教で「無財の七施（むざいのななせ）」という教えがあります。私は仏教徒ではありませんが、恩師から教えていただきました。布施とは、慈悲の心をもって他の人に施しをすることで、お金や物を与えるだけが布施ではありません。喜びの心、感謝の心というような目に見えないものを捧げることも立派な布施だそうです。無財の七施とは、何がなくても慈悲心があれば、七つの姿で人に施すことができると説かれています。その中に「和顔施（わげんせ）」と「愛語施（あいごせ）」があります。「和顔施」とは、いつもなごやかな顔をして人に接すること、「愛語施」は、親愛のこもった、穏やかな、喜びを感じるような言葉で相手に話をする事です。「園長先生、おはよう」「園長先生、ありがとう」「大学でがんばってね」など園児たちの笑顔と優しい言葉は、まさに和顔施と愛語施であり、私はたくさんの施しを受けていたのです。

小学校に入学すると、時にはお友だちとの関係や勉強のことで悩むことがあるかもしれませんが、でも、和顔愛語で毎日の生活をするならば、周りの人に喜びを与え、自分自身も価値ある人生を実現できると信じています。

ゆき組の皆さんの健やかな成長を心から願っています。ご卒園、おめでとうございます。